

第100回
全国高校野球
青森大会
 第4日



光星 終盤で一気

八工、重量打線に力尽く

▽2回戦(八戸市長根公園)

八学光星 1001 1004 02 18
 八戸工 0001 1000 02 18
 (七回コールド)

(光) 中村、後藤、山田、福山、秋山

【評】八学光星は初回も犠打などでリードを広げ、3番長南の中本塁打で先制すると、三回にも1番近藤俊の右前適時打で追加点を挙げた。六回は3連続四死球で1死満塁の好機に6番矢野が中前2点適時打を放つなど、この回4得点。七回光星。初回に先制本塁打

初戦突破に安堵

○：七回コールドの快勝で初戦を突破した八学光星。初回に先制本塁打

【八学光星―八戸工】1回表、八学光星2死、長南が中越えに先制本塁打を放つ。投手・鈴木惇①、捕手・細川八戸市長根公園

(工) 鈴木惇、上野、高橋、細川

▽本塁打 長南(光)

▽二塁打 近藤俊(光)

▽暴投 中村(光) 鈴木惇(工)

八戸工は先発鈴木が重量打線を五回まで2失点と奮闘したが、打線が援

を放ち、チームを勢いづけた。主将長南は「自分たちの野球ができたわけではないが、どんな形であれ初戦を突破できてよかった」と胸をなで下ろした。

戦の緊張からかボールが浮いてしまった」と反省を口にした。「次戦からはさらに厳しい試合になるはず。気持ちを含めて投げたい」と2年ぶりの王座奪還に向けて意気込みを見せた。

先発中村は5回を1失点に抑える好投にも「初